

道徳科学習指導案

- 1 学級 第6学年1組 男子11名 女子10名 計21名
- 2 主題名 「かたよらない心」 C 公正, 公平, 社会正義
- 3 ねらい 正義を貫こうとしたクラスメイトの姿から, 自分も正義を貫きたいと思った主人公の心の変化を考えることを通し, 周囲の雰囲気や人間関係に流されずに行動しようとする態度を育てる。
- 4 教材名 「森川君のうわさ」
- 5 主題設定の理由

○主題観

本主題は, 民主主義社会の基本である社会正義の実現に努め, 公正, 公平に振る舞うことに関する内容項目である。人間はそれぞれ固有の存在であり, 違った価値観をもっている。それぞれ尊重すべき人格であるが, ときに相手によって態度を変えたり自分の気分や好き嫌いで行動したりしてしまうことがある。だからこそ, 自分の弱さに目を向け, 常に偏りはないか己を厳しく見つめていくことが大切である。また, 公正とは, 自分の気分や相手の様子にかかわらず, 同じ基準で正しいことを通そうとすることであり, 公平とは, 同じ視線で接しようとすることである。そして, 人間の弱さを認識したうえで, 公正, 公平でありたいと願い実践していくことが, 正義を実現する生き方となることを感じさせるべく本主題を設定した。

○児童観

本学級の児童は元気な児童が多い。男女の仲もよく, 誰とでも話したり遊んだりできる風土がある。しかし, 引っ込み思案なところもあり, 小グループの中では自分の意見を言ったり行動できたりするが, 集団の中や全体の場で話したりすることには躊躇してしまう傾向がある。

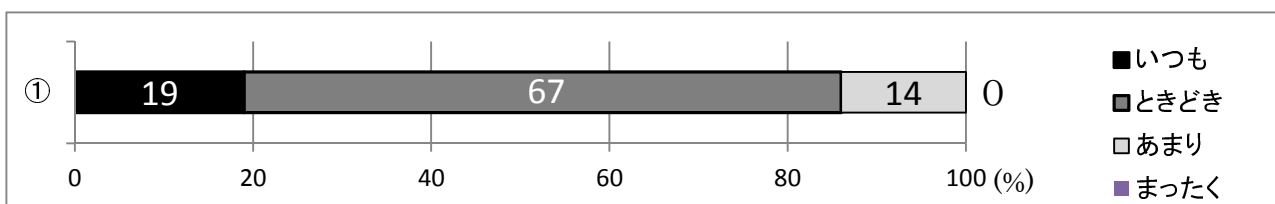
本時のねらいである自分の意見をもつことの大切さと公正・公平・社会正義との関係を考えるため, 児童にアンケートを行った。

【アンケート項目】

①	自分の気持ちや思いを相手に伝えることはできますか。
②	それは, どうしてですか。
③	もし, うわさ話を聞いたら, どうしますか。
④	それは, どうしてですか。

【アンケート結果】

- ◆①自分の気持ちや思いを相手に伝えることはできますか。



◆②それは、どうしてですか。

- ・仲のいい友達がいるから。
- ・自分の気持ちを伝えないと、相手もどうしていいか分からなくなるから、相手のためにも自分のためにも伝えないといけないと思うから。
- ・相手がどんな思いをもつか気にしてしまうことがあるから。
- ・相手と意見が違ふ時は、伝えられないことがあるから。
- ・恥ずかしいから。

◆③もし、うわさ話を聞いたら、どうしますか。

誰にも言わない・・・6人	いいうわさだったら人に言う・・・4人
聞くだけ・・・4人	注意する・・・3人
大人に話す・・・2人	信じない・・・1人

◆④それは、どうしてですか。

誰にも言わない

- ・その人が傷つくから。
- ・言ってしまったら怒られるから。
- ・うわさは本当だとは考えられないから。
- ・悲しむ人があるかも知れないから。
- ・自分のせいで酷くなったりするのがいやだから。

いいうわさだったら人に言う

- ・悪いうわさはいじめにつながるかもしれないけど、いいうわさは面白いから話に入りたい。
- ・いい話は楽しいけれど、悪い話は人を傷つけたり、悲しませてしまったりするから。
- ・人のいいところはみんなに知ってもらいたいから。

聞くだけ

- ・聞かないと自分が嫌われてしまうから。だけど、広めない。
- ・人から聞いた話は、嘘か本当か分からないから。

注意する

- ・うわさになっている人が悲しむから。
- ・うわさをしている人もされている人も傷つくから。
- ・悪口だったら、友達が悲しむから。

大人に話す

- ・子どもだけでは解決できない事かもしれないから。
- ・人が嫌がるから。

信じない

- ・うわさは元が分からないから。いいうわさは信じるかもしれないけど、悪いうわさはその情報が確かなものか分からないし、信じたらかわいそうだから。

うわさを広め、仲間外れにする立場側にあたるような回答はなかったものの、多くの児童が「ぼく」と同じ立場である第三者側にあたる傾向にあることが分かった。誰に対しても分け隔てなく接することが大切であることは理解しているが、おかしいと思うことに対し、どういう行動を取ればいいのかまでは判断できずにいると考えられる。

この時期の児童は、友達との関係はちょっとした理由や、何の理由もなしに揺らいだり、崩れたりすることがある。いじめなどの場面に出会ったときに傍観的な立場に立ち、問題から目を背けることも少なくない。このようなことから、自分自身の問題でもあるという意識をもたせながら指導に当たりたい。

○指導観

本時は、「公正、公平に接するために必要なものは何だろう。」を課題として設定し、課題に立ち返りながら授業を展開する。「ぼく」のクラスの森川君はささいな理由でいじめにあってしまう。仲間はずれにする立場の子どもは明確な理由や自覚がないままに行動し、その他の子どもは第三者の立場としてその様子をうかがっている。本教材では「ぼく」という第三者の立場から話が展開されている。登場人物を非難する学習展開ではなく、時として正義を貫けない弱さがある人間の弱さに目を向けさせたい。そしてどのように考え、どのように対処していこうとすることが大切なのかを考え、「ぼく」の葛藤や心の変化を通し、誰にでも公正、公平な態度で接することの大切さに気付き、今後の生活に生かしていけるように指導したい。

指導にあたっては、タブレット型端末を授業の導入と終末で使用する。導入部分では、意識アンケート結果の変化から、自分たちにも場合によっては公正、公平にできない弱さがあることを視覚的に捉え、課題に迫っていききたい。終末では、自分の考えをタブレット型端末に書き、交流し、一斉に提示することでさまざまな考えに触れさせたい。そこからユニットノートを活用し、教材と自分自身を重ね合わせて考えさせることで、自分のこれから歩いていく未来へとつながるヒントを見つけさせていく。

本教材に含まれていると考える道徳的価値は、次のとおりである。

【この教材に含まれる道徳的価値】

- ◆ 誰にでも正義を実現したいという心がある。
- ◆ 人間には正義を貫けない弱さがあり、その弱さを克服したいと思う心がある。
- ◆ 自分の考えをもつことは、偏ったものの見方をしないことにつながる事が分かる。

道徳的判断力を育成する場面として、中心発問を「順子さんのように正しく考え、行動できるようにするには、どんな心が大切なのでしょう。」と設定した。正義を貫けない弱さが自分たちにもあることを感じながらも、日頃から自分自身の考えをしっかりと持ち、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度が、誰に対しても偏見をもつことなく公正、公平に接し、正義を実現することにつながるという道徳的判断力につなげたい。

また、本学級の児童は、10月から以下のようなユニットを組み、学習を進めている。様々な場面で人との関わり方を通し、相手の立場に立って考えること、自分と異なる考え方や立場を受け入れること、友達のよさを認めることを踏まえ最終時である本時に、「仲よく」についてしっかりと迫りたいと考えている。

【ユニットとの関連】 ユニットテーマ「仲よく」

	教材名	内容項目・主題名	ユニットとの関連
第1時	一年生のお世話係 －アフター・ユ－	C よりよい学校生活, 集団生活の充実 「心を受けつぐ」	1年生との関わりから考えたことを通して、先輩から受けついだものを大切にしようとする心に触れる。
第2時	ブランコ乗りとピエロ	B 相互理解, 寛容 「広い心で」	自分と異なる意見や立場を受け止め、互いを理解しようとする態度に触れる。
第3時	めざせ, 百八十回!	A 個性の伸長 「自分や友達のよさを見つめて」	友達のよさに気付き, 積極的に自分の成長につなげようとする心に触れる。
第4時 (本時)	森川君のうわさ	C 公正, 公平, 社会正義 「かたよらない心」	いじめをなくすために大切な心とは何かを考えることを通し, 主人公の公正, 公平を希求しようとする態度から正義を実現しようとする心を学ぶ。

6 他の教育活動などとの関わり

小学校 第5学年及び第6学年 C 公正, 公平, 社会正義

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく, 公正, 公平な態度で接し, 正義の実現に努めること。

道徳

- ・10月「森川君のうわさ」
- ・2月「六千人の命を救った決断－杉原千畝－」

国語

- ・5月「イースター島にはなぜ森林がないのか」

中学校 C 公正, 公平, 社会正義

正義と公正さを重んじ, 誰に対しても公平に接し, 差別や偏見のない社会の実現に努めること。

7 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (○基本発問 ◎中心発問 ●補助発問)		○指導上の留意点 ☆評価の観点
		T 1	T 2	
導入	1 「かたよらない心」について考える。 (1)理想とする態度や身構えについて話す。	○「公正、公平な心」とはどんな心だと思いますか。 ・誰かをひいきにしない。 ・相手によって態度を変えない。 ・自分の好き嫌いで行動しない。 ・周りの言うことに流されない。		○児童の価値観を明確にすることで、課題意識を高める。 ○「偏らない心」を「公正、公平」とすることをおさえる。
	(2)タブレット型端末で意識調査を行い、結果について考える。	○この結果を見てどう思いますか。 ・対象学年が上がるにつれ、注意できると答える割合が減った。 ・同じ内容なのに相手によって結果が変わってきている。	●○○年生がいきなないことをしています。あなた注意することができますか。	○時に公正、公平にできない弱さがあることを知る。 ○タブレット型端末を使用し、本時の考えることについて視覚的に捉える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 課題 公正、公平に接するために必要なものって何だろう。 </div>				
展開	2 「森川君のうわさ」を読んで、いじめをなくすために大切な心とは何かを考える。 (1)うわさを聞いた時の「ぼく」の気持ちを考える。	○おかしいなと思うことはありますか。 ・確かめもせずに、森川君の作品を「お父さんが作ったものだ。」と言っているところ。 ・本当かどうか分からないのにうわさをしているところ。		○『かたよらない心』とはどういう心なのか」という視点で考えさせる。

	<p>(2) 森川君が無口になっていくのを見ている「ぼく」の気持ちを考える。</p>	<p>・「変だな。」と思いながらも周りに同調しているところ。</p> <p>○少し後悔しながらも、ずるい気持ちでいる「ぼく」に共感しますか。</p> <p><できる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうだけど、言い出す勇気がないから。 ・このままではいけないと分かっているけど、どうしたらいいか分からない。 <p><できない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がはっきり言えばこんなことにならなかったのだから、言うべきだ。 ・見て見ぬふりははじめだ。 	<p>○「ぼく」は、なぜ「それはちがう」と言えなかったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い争いになったら面倒だから。 ・友達に嫌われたくなかったから。 ・言った後の反応が怖くて言えなかった。 ・周りの雰囲気の流れされてしまったから。 <p>○順子さんはどんな思いで手を挙げて発言したと思いますか。【ユニット</p>	<p>○森川君のことを気の毒に思いながらも、正義を貫くことのできない「ぼく」の弱さに共感させる。</p>
	<p>(3) 「ぼく」の心の変化について考える。</p>			

			<p>ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森川君を見ていてかわいそうだと 思ったから。 ・自分の意見を言うのはしんどいけど、正しいことをしたいと思ったから。 	<p>○「ぼく」にも、正義を希求する心があることに気付かせ、さらに自分たちにもそのような心があることを自覚させたい。</p>
	<p>3 正義を貫こうとする意義について考える。</p>	<p>◎順子さんのように正しく考え、行動できるようにするには、どんなことが大切なのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの反応や雰囲気 に流されない力。 ・周りの意見でなく、自分で考え、判断する力。 ・自分が正しいと思ったことを実行しようとする心。 		<p>☆公正、公平を希求する心が正義の実現には大切なことであると理解している。</p> <p>○タブレット型端末を使って交流する。</p>
終末	<p>4 「ぼく」の心の葛藤や変化から、自分の生き方について考え、自分の行動や心情を支える道徳的価値に気づき、本時の振り返りを行う。</p>	<p>○今日の授業で「公正、公平に接するために必要なことは何か。」について考えたこと、感じたことをまとめましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を常にもつことが大切だと思った。 ・周りの意見や雰囲気、人間関係に流されずに行動しようとする強い気持ち が大事だと思った。 ・おかしい事をそのままにしておくことが、いじめにつながると 思った。 ・常に正しいことをしようとするには、勇気がいる ということが分かった。 <p>【ユニットノート】</p>		<p>☆弱い心に傾きそうになった時、公正、公平な心を目覚めさせ、正しく判断し、正義の実現に向けて努力しようとする記述をしているか。</p>

8 板書計画

